



胎内・鬼滅毒・培養記

R18

まず
なにより

どうやって
取り込んで
体内に毒素が
浸透しませんでした



呼吸法による
代謝向上が
一因だろうけれど

常中を
止めるわけにも
いきません



残る手は
ただ一つ

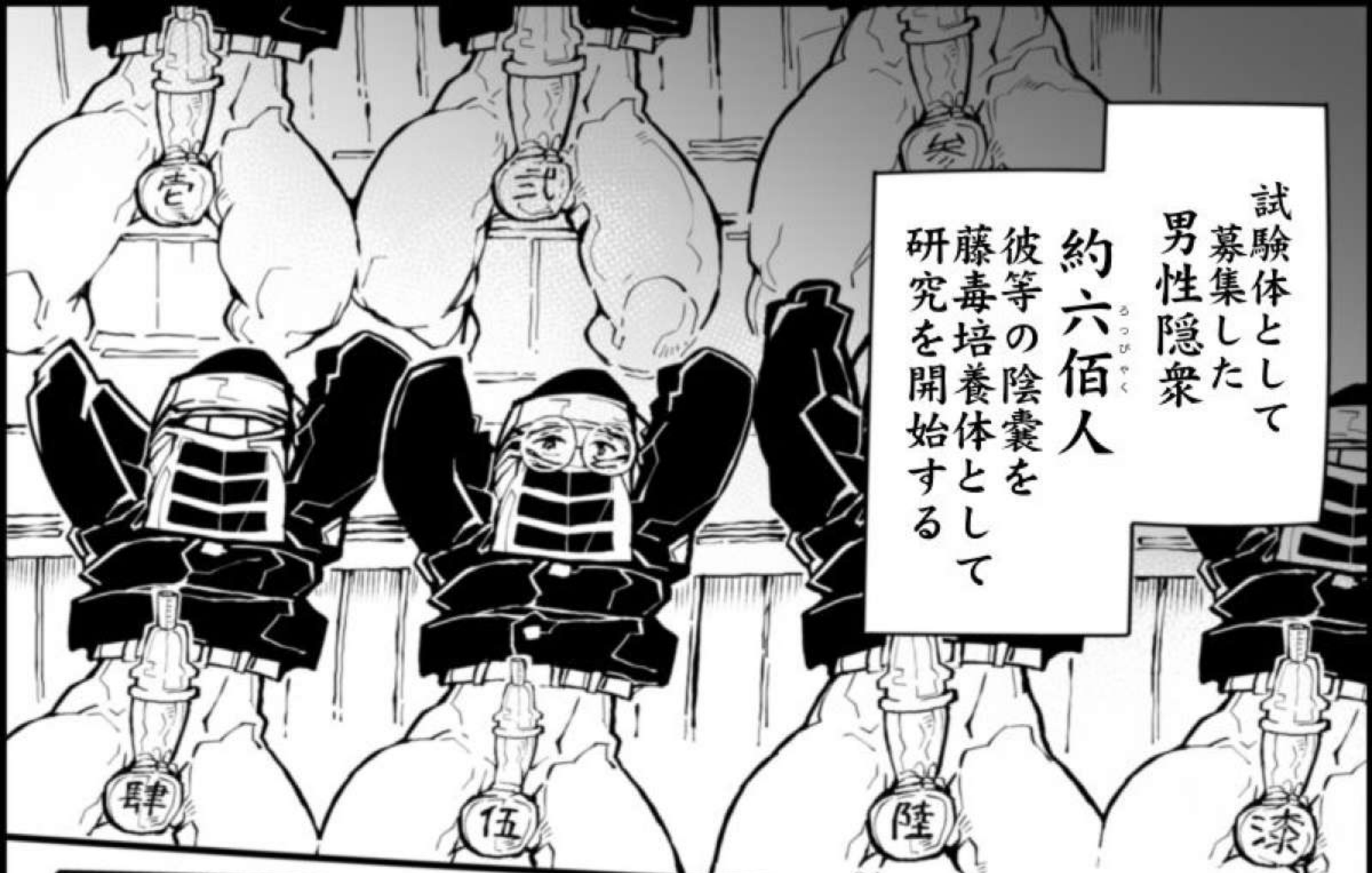


仕方ない
のでしょう

試験体として
募集した
男性隠衆

約六百人

彼等の陰囊を
藤毒培養体として
研究を開始する



まず
一本一本の
海綿体を
搾り鍛えて
大きく育成
させる

藤の毒液を
吸収する
面積を増やす



程よく硬く
生育した頃に

藤の花を
素とした
毒液を

精巣に
打ち込み

組織培養

14日間

受精能力を
備えた
藤毒の精子が
溢れ出る

精嚢や
前立腺の
分泌液と
混じり



あとは
日常的に
子宮内内膜を
藤の精子で
満たすことで
環境を整える

そして
排卵時

高濃度に
調整した
男性器を
順番に
腔内射精
受精を狙う



着床した後も
胎嚢生成が
確認出来るまで

三週間
断続的に
腔内射精を
続けた

伍百

こうして
胎内に
宿る筈の
純度百%
藤毒の生命

それを
我が身
もろとも
餌とする業は
鬼を殺すための
鬼畜の所業

しかし
構うものか

如何なる
手段を
用いて
鬼を殺すと
決めた

私は

鬼の首を
落とす膂力が
無かろうと
ただ諦めず

ただ

そのため
知識と技
業も技のうち

注意
すべきは



各種の男根が
惹き起す

快感の副作用

自ら育成した
逞しい男根を
ときに貫き、貫かれ
丹念に突きつ、突かれて
膣内に精を
放出し果てる
その性の慈しみ

近頃は
精子を
吐き終えた
男根でも
感度に応じて
抜き挿しを
続けている

いけません
いけません
毒の種を
仕込む
目的を
見失っては
イケません